

会 議 録

会議の名称	令和4年度第1回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和4年4月25日（月）午後7時00分～8時00分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	古澤立巳議長、佐々木眞理子副議長、荒川照子委員、京谷恵子委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、渡邊知広委員、吉田和江委員、富士伸委員、事務局
欠席者	内海幸一郎委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 議長あいさつ 2 協議事項 3 その他
会議資料	・定期刊行物 ・資料1「つながり・生涯学習・社会教育について」 ・資料2「提言書のながれの確認」
会議録確認	古澤立巳議長

会議内容

1. 議長あいさつ

2. 協議事項

【議長】 昨年度末の3月28日に開催した会議では、会議開催が4カ月ぶりということで、これまでの経過の報告確認と、生涯学習課からの報告を受けた。生涯学習課からの報告については、一点目は、第32期前期（令和元年度）で提言書のテーマとした「成年年齢の引下げに伴う成人式典の在り方について」に伴う、富士見市の成人式の名称変更について。二点目は、令和4年度社会教育関係団体に対する補助金の交付について。今日の会議では、まず、委員各位から提出いただいたつながり、社会教育、生涯学習について、扱っていききたい。各意見に対する補足説明と、疑問点や質問があればその確認を行う。まずはつながりについて、各委員の意見を確認していききたい。

【委員】 つながり（1）について、社会の構成について記述した。どの場面においても希薄化しているものだと感じている。

【委員】 つながり（3）について。大人になってからのつながりというものは、自分の希望によるものだと考えている。例えば、先日針ヶ谷コミュニティセンターで開催されているアロマ講座に参加したら、大人気だったようで、単発の講座ではなく、私が参加したのは第2回目で、また第3回目、4回目の予定が決まっているということだった。定員を上回る申し込みがあったようで、みなさん自分が「やりたい」と思う時は、一人でも広報や公民館のお知らせを見て、参加するものなのだと思う。私は地域の活動にも多くの人に参加してほしいと思っているが、そのためには、やはり興味を持ってもらうことが必要で、例えば学校の保護者会の時にお知らせするなど、子育て世代を巻き込むためには学校という場でもっとアピールするのが良いのではないかと考える。全く興味がない、という人ばかりでは決してないと思うので、「こんなことやっているんだ」とまずは興味を持ってもらうために、しっかり広報を行うことが必要なのではないか。

【委員】 つながり（4）について、自身の勉強がてら記述した。知らなかったことも多々あり、つながりとは意外と多く存在するのだな、というのが正直な感想。自分がそうだったように、つながりについて知らない、気づいていない人は大勢いるのではないかと思う。ただ、色々なコミュニティ、つながりがあるということを知らないだけで、私の職場の若い人を見ると特にそう思うが、自分から他者とつながっていこうという考え方が強く、そういう人は増えてきていると思うので、意識を変える仕組みが何かできれば、もっと良くなるのではないだろうか。また、つながりを持つという事を義務のように捉えるのではなく、自身にとって負担にならない程度の加減で捉えてもらえるようにできれば、良い流れにつながるのではないかと感じた。

【委員】 つながり（6）について。つながりというものは、本来であれば広く遍

く存在するものだと思うが、個々で見ると偏った場所に集まってしまっているのではないかと感じている。つながりを作る上では、機会を提供するとしても、個人個人に考え方や思考は異なるので、通り一遍の形ではなく、色々なつながりの形を用意した上で、例えば網に引っ掛けるような仕組みを作っていないと、難しいのではないかと考える。

【委員】 つながり（7）について。PTAの広報紙について、役員みなそれぞれ忙しく、顔を合わせず作成したという話を耳にした。私がPTA役員として活動していた時は委員会を開いて作成していた。どちらの方がよい、とは言えないが、今はオンラインでもやり取りができる時代。対面でのつながり、オンラインでのつながり、それぞれ意味があるのではないかと思う。

【委員】 つながり（8）について。私が住んでいる地域は、町会が活発に活動している。伝統的な催事などもしっかりと継承していこうという地域で、イベントなどが開催されると、本当に多くの人に参加している。

【議長】 つながり（9）について。「つながり」という言葉を聞いたときに思いつくものを列挙した。この中で、自分が一番強く求めているつながりとはなにか考えた時に、それは地域のつながりだと考えた。20数年前に富士見市に引っ越してきたが、その時にまず考えたことが、自分が住むこの地域の中でどういうつながりが持てるかということ。今回の提言の中でも、地域のつながりについてはしっかり触れていきたいと考えている。では次に、生涯学習について確認したい。

【委員】 生涯学習（2）について、社会教育と関連して考えた。「学習」とは自発的な行為である。自分の生活の中に課題があるということ認識し、それを解決したいという願いがあることで学習が成立する。しかし、地域に目が向いておらず、自分だけで生活を完結してしまうと、互いに助け合うといったことが少なくなってしまう。行政が意図的に働きかけて、課題があるのではないかと、もっと良くなるのではないかと提示することが必要だと考える。それを受けた市民が、自分たちの力で解決したいと思えるような素地を育むことが、生涯学習ではないかと考えた。

【委員】 生涯学習（4）について書いたが、自分でも社会教育と混同してしまっている。生涯学習がインプット、社会教育がアウトプット、というような捉え方か。生涯学習は自分の内面を磨いていくもの、個人スキルを高めるものという感覚がある。

【委員】 生涯学習（5）について。社会教育の中に生涯学習が含まれるものとして捉えていた。自分が生きていく過程において、人間であるから、死ぬまで色々なことを学習していくものである。私自身、その一環として人材バンクで市民の方同士で学習しあう機会を設けたいと思い、活動している。

【委員】 生涯学習（6）について。「よりよくありたい」という個人の気持ちが動機づけになっているものこそが、生涯学習なのではないかと考えている。きっかけは外から与えられたものかもしれないが、あくまできっかけであり、外から強制されるものではないものとする。

【委員】 生涯学習（7）について。個人的な学習が一生続くもの、と捉えている。

社会教育は個人ではできない部分もあり、そこが違うのではないかと考えている。また、生涯学習と社会教育について、今回を機に考えた時に、生涯学習がみんなにとって実行できるものになっているのか、という不安を覚えた。

【議長】 生涯学習（10）について、私は生涯学習の重要なキーワードとして、「個人」と「意思」というものがあると考えている。個人の意思によるものということが重要で、他の委員の意見にもあったが、誰からも強制されることなく、自発的な意思によってなされるものが生涯学習だと認識している。では最後に社会教育について、各委員から説明をお願いしたい。

【委員】 社会教育（2）について。学習と教育の違いがある。個人の生活に直結した課題を解決するための学習が生涯学習。社会教育は教育であるから、伝承するものであり、計画的なもの。目の前にある課題だけでなく、将来的なものも見据えて、行政などが計画を立て、教育活動を行っていくものが社会教育であると考え。学習「者」、教育「者」を考えると分かりやすいのではないだろうか。教育とは意図的、計画的に学習者に対して投げかけられるもの。

【委員】 社会教育（4）について、生涯学習は個人のもものとして捉えたが、社会教育は他者とつながることとより密接な関係にあるものと考えた。

【委員】 社会教育（5）について。富士見市の社会教育は、昔は入間地区の中で一番活発に行われていた。各公民館で様々な事業を行いながら、当時の社会教育課が一つに取りまとめていた。しかし最近の公民館の事業を見ていると、高齢者や子ども、青少年対象の事業はあるが、今現在働いている人たち対象の事業がない。それが40代、50代の人たちの中に、活動できる人を作れていない一つの要因なのではないだろうか。

【委員】 富士見市の社会教育が入間管内で一番活発だったというのは、何年ぐらい前の話なのか。

【委員】 生涯学習課ではなく、まだ社会教育課だった頃になる。20年くらい前か。

【議長】 私も10年以上前、まだ富士見市とかかわりがなかった時に、富士見市の公民館活動がクローズアップされていた記憶がある。

【委員】 私も当時かなり勢いがあったと記憶している。

【委員】 20年前から10年前くらいまでは活発だったということか。私は社会教育が生涯学習に入れ替わるにつれて徐々に変わってきたという感覚がある。

【事務局】 委員の話の中で、働いている人向けの事業がなくなったというものがあったが、昔はどのような事業が開催されていたのか、ご存じであれば伺いたい。

【委員】 当時、まだ働いている人たちを対象に、定年退職後を見据えて、地域社会に参加していくための講座があった。それは例えば交流を通して社会参加を促すようなものではなく、直接的に社会参加を呼び掛けるもの。また今活発に活動している70代ぐらいの方達には、例えば男の料理クラブなど、働いている男性に向けた講座が開催されていた。そういう講

座を通して意識を高め、公民館に通ってもらえるようになり、今の活動につながっているのではないだろうか。しかし現役世代に対する事業が手薄になってしまったのは、社会情勢も関係していたように思う。いわゆる2007年問題の影響だったのではないか。

【委員】 いわゆる団塊世代の方たちが一斉に退職を迎える時に、公民館も定年退職後の方達に向けた事業を手厚くし、その時に現役世代への事業が抜けてしまったように思う。多くの人が地域に帰ってくるため、その方達に向けた事業を行ったほうがよいのではないかという方向に動いた時があり、その時に間の世代が抜けてしまったという印象がある。地域の中に帰ってくる方達が多くいたので、その方達に向けた事業をふやすことは、それはそれで大切なことだったと思うが、それに集中しすぎてしまった。その下の世代の方達の意識を育てるチャンスを逸してしまったのではないかと考えている。

【委員】 社会教育（6）について、生涯学習が個にフォーカスされるものであるとすると、社会教育は機会や場を捉えたものではないかと考える。また社会教育の効果は、個人ではなく、機会を提供した社会にとって価値あるものとして現れるものではないかと考える。

【委員】 社会教育（7）について。社会教育について学んだ際に見せてもらった図をよく覚えている。家庭教育、学校教育と並べられるが、社会教育は子どもから大人まで幅広く対象とするもので、魅力を感じ、自分も関わるようになった。

【委員】 社会教育（8）について。今の公民館の職員の方ももちろん熱心にやってくさっているが、当時の職員の方はとても力を入れて地域と寄り添い様々な事業を行ってくれていた。希望する方達には職員が講師となり、教えてくれていたように記憶している。そうして志ある人たちが育ち、地域の中で活躍していた。当時はまだあまり利用していなかったが、公民館にとっても魅力を感じていたし、すごい所だなと思っていた。

【議長】 委員のお話を聞いて思ったことは、魅力を感じてもらうことが、社会教育にとって必要だということ。次の世代につなげるためには、ここに一つポイントがあるのではないだろうか。また社会教育（10）については私が書いたもの。お恥ずかしい話ではあるが、40代になるまでは、教育とは学校教育を指すものだと思っていた。ところが40代になってからは、教育は学校教育だけではないということ、また、社会教育というものが重要であるということが分かり、教育に対して考え方が変わってきた。組織的なつながりの中で行う人づくりや地域づくりが重要で、本来の教育活動の目的というのは、人を育てるということではあるが、学校教育の終わりが教育の終わりではない。むしろ社会教育に係る時間の方が人生の中では長く、そういったことを考えると、やはり社会教育の重要性がもう一度見直されても良いのではないかと考える。

【事務局】 教育が学校教育だけを指すものではないという事を知ってもらうことは重要と考える。委員のみなさんが社会教育の存在を知ったきっかけについてお聞かせいただきたい。

【委員】 私も学校を卒業したら教育というものから離れるものと思っていたので、

家庭教育や社会教育について知った時ショックを受けた。しかし同時にすてきだなとも思った。その時に自分がやっていることも教育だし、みんなができることなのだと気づき、すごく嬉しかった。私は公民館だよりの編集委員をやっているときに社会教育という言葉を知った。それ以前にも図書館でお手伝いをしていたが、社会教育とは知らず活動していた。

【議長】 私の実感としての話になるが、学校教育に携わっている人間は、社会教育というものを軽く見てしまう人が多いように感じる。私はどうしても社会教育に携わらなければならない時期があり、初めて自分が社会教育の世界に入っていった時にショックを受けた。社会教育の意味や意義、認識を深めるしかないと思った。そこで社会教育について色々知っていく中で、教育とは学校教育だけではないのだ、むしろ人生においては社会教育の方が関わる期間は長いのだということを知った。

【委員】 私は学生時代に高校の教員を目指したことがあったが、教育実習に行き、自分には向いていないと思った。民間企業に就職し、たまたま社会貢献を担当する部署に配属になり、そこで、学校とも違う形で、児童生徒に社会の在り方を伝えたり、学校を卒業された方々に対して、新しい視点を持ってもらうための市民講座を企画運営したり、そういった仕事をしてきた。そこから自分が暮らしている地域にもなにか還元していけないかと考えるようになった。

【委員】 私は理美容業界で働いている。職人の世界なので、個人で売り上げの数字を上げるだけだったのだが、それだけでは限界があると感じるようになった。そこから店長やリーダーなどの管理職になった時に、組織力のほうが重要なのではないかと考えるようになった。それが一番の大きなきっかけだと思う。そこから色々勉強するようになった。また、業界もそういう雰囲気になった。みんなで個人で数字を上げよう、という考えから、チームや人が大事という考え方にシフトした。店長など人を育成する立場になった時に、より勉強するようになった。そしていざ自分は地域でなにをしているか考えた時に、何もしていないし、一軒先の家のことも知らないということに気づき、今に至る。

【委員】 私は地域福祉が注目されていた時にちょうど大学生で、卒業論文も地域福祉にかかわることで書いた。そこで社会教育という言葉も勉強した。私は地域福祉の方面の仕事には就かなかったので、今も現役で働いている大学時代の友人たちを見て申し訳なくなり、なにかきっかけがあった時は自分の立ち位置でできることをやろうという思いがあった。そしてPTAがきっかけとなり、そこから町会など、お話があった時にはできるだけ参加するようにしてきた。

【議長】 今回の提言に向かって話し合う原点というのは、委員一人ひとりの、生涯学習や社会教育にかかわる、またはそれを知った時のきっかけや、これまでの経験がベースになっていくのではないかと感じた。今後また話を進めていく中でまとめていけたら。では次に、提言書の流れを確認したい。事務局から説明を。

【事務局】 資料に基づき説明。

【委員】 「3 社会教育の役割」の最終行に「行政としての意図的な働きかけ」とあるが、これは公民館で講座を開催するなどの事業をイメージしているのか。

【事務局】 そういった働きかけも必要であると考えている。最も理想的な形は、市民の皆さんが自発的に社会教育活動に取り組むこと。しかし、行政としても、富士見市の社会教育を活性化させるための働きかけは必要であると考えている。

【委員】 「行政としても意図的な働きかけ」にしたい。基本的には、私達市民が主体となって活動していくものだと考える。

【事務局】 ご指摘の通り修正する。

【議長】 本日の会議を踏まえ、「4 問題の再考」以降はまた次回の会議で議論していけたら。また、今日は各委員から多くのお話を伺った。今日お話しいただいたものに関連した資料や情報があれば、口頭でも構わないので、次回以降ぜひ共有していただきたい。

3. その他

【議長】 社会教育委員会議に、富士見市教育振興基本計画審議会委員の推薦依頼が来ている。今回は富士委員にお願いできればと考えている。

【委員】 全員承認。

次回会議日程

令和4年度第2回会議

日程：令和4年6月6日（月）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール